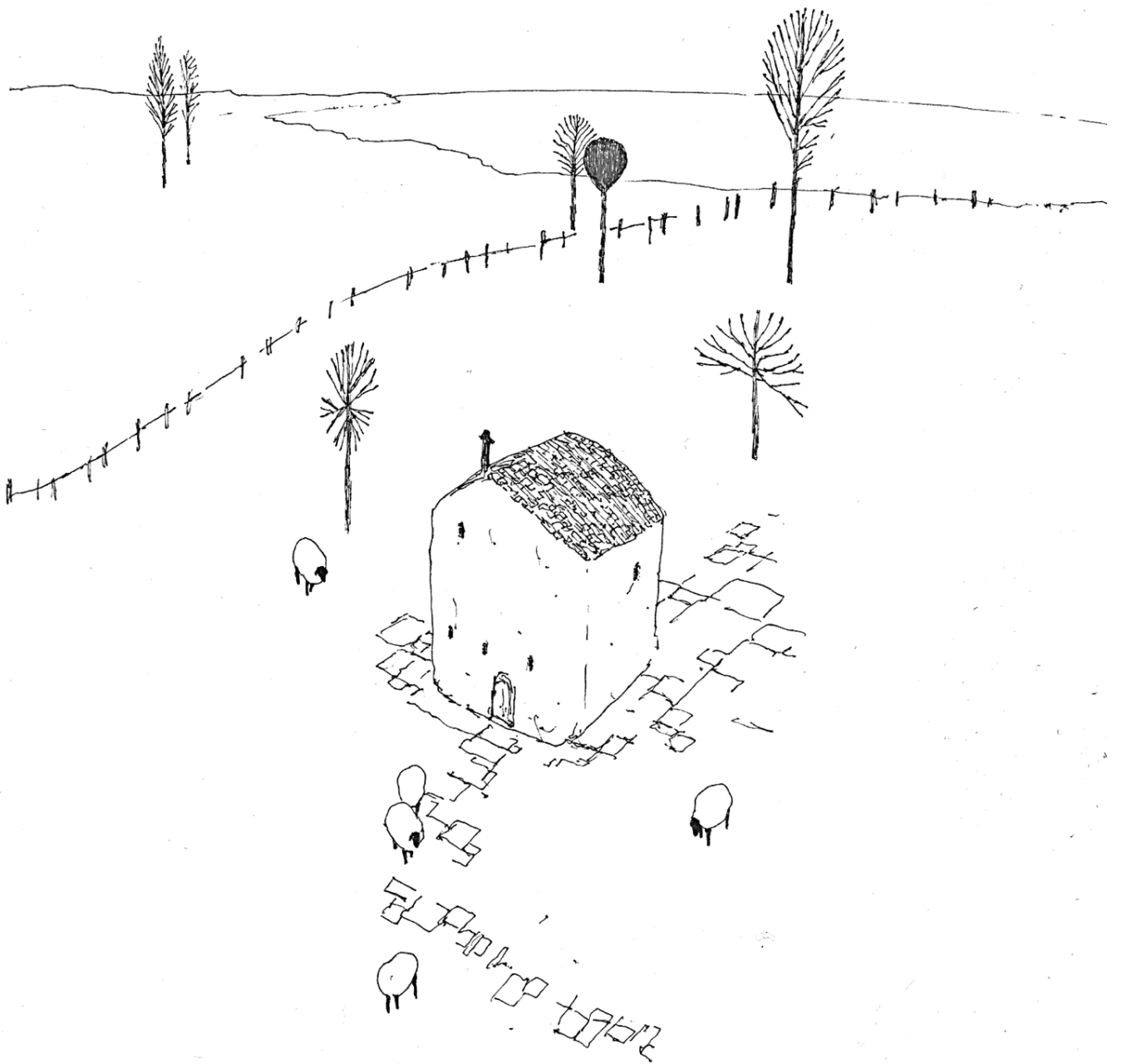


この世の寄留者として
～ 遣わされた地で福音に生きる～

ペテロの手紙第一 聖書研究



—はじめに—

KGKは2017年に70周年をむかえます。今日まで学生運動が続いてきた背後に、主事を立てて学生世界に送り続けた、卒業生たちの熱心な祈りと支援があります。卒業生自身もまた、卒業後に遣わされる働き場や家庭、教会において福音に生きることを励まし合う交わりを重ね続けてきました。

現在、各地区の卒業生会では、地区単位の活動に加えて県単位や地域単位で1～3カ月に1度、5～10人で集まる活動も少なくありません。それらの機会に用いることのできる卒業生ならではの学びのテキストがあったら、どんなに大きな励ましであろうかと思ってきました。

60周年でも大きな目標であった卒業生会担当主事が、2014年には2人立てられ、14年ぶりに全国卒業生集会（GNC）が開催されました。これをきっかけに複数の世代別、地域別の集まりが生まれました。そして、「卒業生聖研テキスト」作成プロジェクトも動き出し、発行にいたることができました。

学生時代のグループ聖研を思い出しつつ、今この時だからこそ聞こえてくる神様の語りかけを、この聖研を通して共に受け取っていきたいと思います。

2016年1月

副総主事・全国卒業生会担当主事 矢島志朗



ペテロの手紙第一とは？



ペテロの手紙第一は、イエスの 12 人の弟子の 1 人のペテロが記した手紙です。イエス・キリストの受難の時、にわとりが泣く前に三度イエスを否んだ人物です。けれども、復活された主イエス・キリストは、そんなペテロに現れ、「わたしの羊を飼いなさい」と新たに召しを与えられます。その後のペテロはこれまでとは違いました。それからペテロは福音を伝える者、また羊を飼う牧者としての働きに従事しました。それは、特に使徒の働きから知ることができます。

このペテロが殉教したのは、だいたい 67 年から 68 年頃と考えられており、この手紙の執筆は、ペテロが殉教する数年前の 64 年から 67 年頃と考えられます。

60 年代の前半といえば、キリスト者は多くの困難な状況に置かれていました。初代教会とローマ政府との間には対立がありました。また、ユダヤ主義との戦いがありました。それゆえに、初代教会のキリスト者たちは常に迫害や困難を体験していたのです。さらに、64 年に始まる皇帝ネロによる大迫害によって、キリスト者の置かれている状況は悪化し深刻化していきました。著者のペテロもまた、この大迫害によって殉教したと言い伝えられています。まさに、大迫害の直前、あるいはその最中であって、死を目前としながら、ペテロはこの手紙を記したのです。

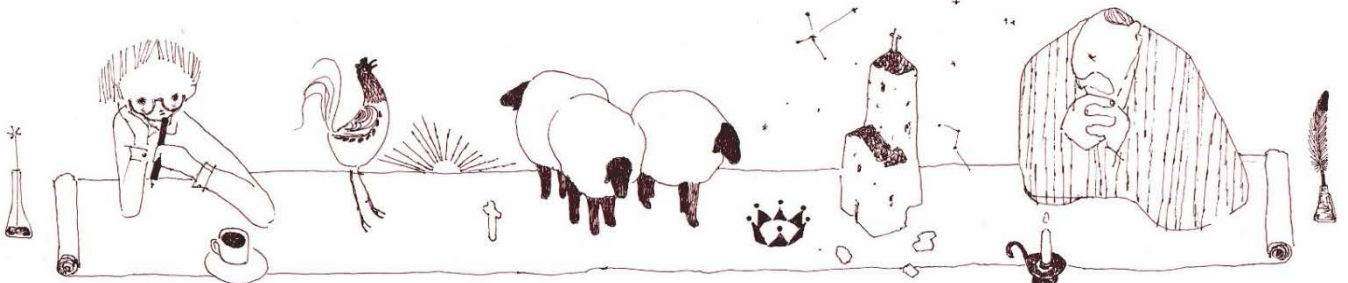
この手紙の中で、ペテロは自分のことを「キリストの苦難の証人 (5:1)」であり、「イエス・キリストの使徒ペテロ (1:1)」と紹介しています。また、兄弟シルワノによってまとめさせた (5:12) 手紙であることも記してあります。宛先は、離散し寄留している、神に選ばれた人たち (1:1) です。手紙が執筆された時代背景からもわかるように、当時のキリスト者たちは、迫害されたり、様々な困難に直面したりしていました。試みにあったり、悪口を言われたり、不当な苦しみを受けていたりしている様子が、この手紙から知ることができます。そして、これから襲ってくる大迫害をも予感させるような記述もこの手紙の中に出てきてます。

ペテロの手紙第一の特徴

ペテロの手紙の中で、特に目が留まるのは、「試練」や「試み」、また「苦しみを受ける」といった言葉でしょう。試練（あるいは、そのように意味する言葉）に訳されていることばは二つあり、一つは誘惑とも訳されることばで、主の祈り「私たちを試みにあわせないで、…」の中の「試み」と同じことばです。また、もう一つは、主に、人が実生活の中で直面する誘惑や試み、試練を指すことばです。このペテロの手紙の中で、試練ということば以上にたくさん用いられていることばは「苦しみを受ける」で、これは、キリストの受難をも指すことばです。これらのことばと同時に、ペテロの手紙第一の中では、現れの時（1:7, 13; 4:13）、おとずれの日（2:12）、大牧者が現れるとき（5:4）、終わりのとき（1:5）といった、キリストの再臨をさすことばが多く用いられています。それと同時に、終末において与えられるキリスト者の希望も多く語られています。

また、キリスト者としてキリストにならうものとして歩むことによって、神があがめられるということも述べられています。

これらのことをふまえると、ペテロの手紙第一では、キリストが苦しみに会い、それを耐え忍ばれたように、選ばれ救いを受けた私たちもそのように生きることによって、福音が証しされ、神があがめられるようになること、そして、苦しみを受ける私たちもやがての時に栄光にあずかる者になるという希望が示されていると言えるでしょう。



I ペテロ聖書研究<1> 1:1-12 救いのゆえに、試練の中でも大いに喜びことができる

はじめに

ペテロがこの手紙を書いた時代は、すでに迫害が始まっていて、キリスト者がいろいろな場所に逃れて離散している状況でした。そして、今までもすでに迫害されてきたキリスト者に、さらなる大迫害が訪れようとしていました。キリストを信じるゆえに、困難な現実と直面していたキリスト者たち…現代を生きる私たちの中にも共通する部分があるのではないのでしょうか。ペテロは何を伝えたいと願ってこの手紙を書いたのでしょうか。ともに考えてみましょう！！

1. 1-2 節で、ペテロは何のために選ばれたと言っていますか？また、それは何を意味しているのでしょうか？
2. 3 節、4 節では、神の大きなあわれみとイエス・キリストが死者の中からよみがえられたことで、①私たちが新しく生まれさせ、②生ける望みを持つようにしてくださり、③天にたくわえられている資産を受け継ぐようにしてくださったことが述べられています。これら 3 つはどのような意味があるのでしょうか？またどんな関連性がありますか？考えてみましょう。
3. 「信仰」という言葉とともにどのようなことが言われていますか？確認してみましょう。

5 節 信仰により →

7 節 信仰の試練 →

9 節 信仰の結果 →
4. 10 節に「預言者」ということばが出てきます。この預言者とは、旧約時代に神のことばをイスラエルに告げ知らせた人たちを指します（例えば、エリヤやイザヤ、エレミヤなど）。「あなたがたに対する恵みについて預言した預言者たちも」、この救いについて細かく調べ（10 節）、「それらのことは、天から送られた聖霊によってあなたがたに福音を語った人々を通してあなたがたに告げ知らされた」（12 節）とあります。当時のキリスト者にとって、これはどのような意味があったのでしょうか？ また、それはあなたにとってどのような意味があるのでしょうか？

まとめ：「救い」と「試練」にはどのような関係があるのでしょうか？話し合ってみましょう。



第1回の聖書研究（1章1節から12節）を通して、神の選びと信仰、そして救いと試練について考えました。そして、キリスト者は神に選ばれ、救いを受けていること、それゆえに試練の中にあっても大いに喜ぶことができることを学びました。続いてペテロはキリスト者たちに何を勧め、教えているでしょうか？ 今日の箇所から考えてみましょう！！

1. 13節で「イエス・キリストの現れのとあなたにあなたにもたらされる恵み」とありますが、ここで言われている恵みとは何を意味しているのでしょうか？前回の聖書研究の箇所（1:1-12）から考えてみましょう。（参照；1:5,7） また、それは私たちにとってどのような意味があるのでしょうか？
2. 1章15節に「あなたがたを召してくださった聖なる方にならって、あなたがた自身も、あらゆる行いにおいて聖なる者とされなさい。」とされていますが、ペテロはなぜこのように勧めているのでしょうか？実際にどういうことが「聖なる者とされる」ことなのでしょう？具体的に考えてみましょう！
3. ペテロは神のことを、17節では「人をそれぞれのわざに従って公平にさばかれる方」、21節では「死者の中からこのキリストをよみがえらせて彼に栄光を与えられた神」と述べています。ペテロは当時の人たちにどのようなことを知ってもらいたかったのでしょうか？想像してみましょう。
4. 21節に「あなたがたの信仰と希望は神にかかっているのです」とありますが、この言葉を通してペテロは何を強調したかったのだと思いますか？

まとめ：神はどのようなお方だと今日の聖書研究からわかりましたか？そのことはあなたにとって、どのような意味がありますか？

I ペテロ聖書研究<3> 1:22-2:10 主のいつくしみとあわれみを受けた者として

第2回の聖書研究（1章13節から21節）を通して、キリスト者はイエス・キリストの尊い血によって贖われ、神を信じる者とされたことを確認し、それゆえ信仰と希望は神にかかっていることを学びました。続いてペテロはキリスト者たちに何を勧め、教えているのでしょうか？ 今日の箇所から考えてみましょう！！

1. 23節の「神のことば」、25節の「主のことば」、「福音のことば」とは、どのようなものですか？
2. 2章2節に「みことばの乳を慕い求めなさい」とありますが、ペテロはなぜそのように勧めているのでしょうか？また、その前の1節で「すべての悪意、すべてのごまかし、いろいろな偽善やねたみ、すべての悪口を捨て」るように勧めています。それはなぜでしょうか？1章22節から25節を参考にしつつ、考えてみましょう。
3. 4節から8節には「岩」や「石」ということばが頻繁に出てきます。これはキリストを指しています。また、7節にそれに「より頼んでいる人」と「より頼んでいない人」が出てきますが、この二つの態度によって、石であるキリストとの関係がどう変わりますか？あなたはどうですか？
4. 10節の「神の民」であること、「あわれみを受けた者」であることとは、どういう者でしょうか？また、「神の民」あるいは「あわれみを受けた者」になることは、私たちにどのような意味があるのでしょうか？

まとめ：9節で「あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。」と言われていることは、私たちにとってどのような意味があるのでしょうか？また、「それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。」と言われて、どのように思いますか？

I ペテロ聖書研究<4> 2:11-3:12 勧めの奥底にあるもの



第3回の聖書研究（1章22節から2章10節）を通して、私たちが救われたのはみことばによること、そして神のあわれみを受けた者として神の民として生きることを確認しました。さらに、神を宣べ伝えることに召されていることを学びました。続いてペテロはキリスト者たちに何を勧め、教えているのでしょうか？ 今日の箇所から考えてみましょう！！

1. 2章11節から17節にかけてペテロは「愛する者たち」に対して勧めをしています。どのようなことが勧められているか挙げてみましょう。また、その勧めからキリスト者に求められている態度とはどのようなものだとわかりますか？
2. 18節から25節にかけてペテロは「しもべたち」に対して勧めをしています。21節に「あなたがたが召されたのは、実にそのためです」とありますが、何のために召されたのでしょうか。また、なぜ、そのように召されたのでしょうか？21節から25節に記されているキリストの姿から考えてみましょう。
3. 3章1節から6節にかけて「妻たち」に対して、7節では「夫たち」に対して、ペテロは勧めをしています。妻たちに対してはおもに夫に服従すること・従うことを、夫たちに対して妻を尊敬することが勧められています。それぞれの勧めの目的は何でしょうか？また、妻たちと夫たちに異なる勧めをしたペテロの意図は何だと思えますか？
4. 8節から12節では、勧めの対象が「あなたがた」と、皆に戻ってきています。8節から9節で8つのことが勧められており、そのように勧める理由としてペテロはあなたがたが「祝福を受け継ぐために召されたから」と述べています。なぜ、このようなことが祝福を受け継ぐために召された者に求められるのでしょうか？

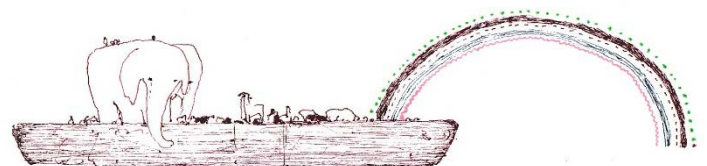
まとめ：今日の聖書研究の箇所では様々な立場への勧めがされていましたが、それとキリストの姿とはどのような関係があるのでしょうか？分かちあってみましょう。

I ペテロ聖書研究<5> 3:13-3:22 キリスト者としての歩みと良心(バプテスマの意味)

第4回の聖書研究(2章11節から3章12節)を通して、キリストの姿を模範にして生きることを学び、キリストの姿を主軸として、様々な立場に勧めがなされていることを確認しました。続いてペテロはキリスト者たちに何を勧め、教えているのでしょうか?今日の箇所から考えてみましょう!!

1. 15節にある「希望」とはどのようなものなのでしょうか?考えてみましょう。
2. 義のために苦しむこと(14節)や善を行って苦しみを受けること(17節)とありますが、当時の人たちは何ゆえに苦しみにあっていたのでしょうか?また、当時の人たちと私たちとの共通点はあるのでしょうか?
3. 20節から21節にかけてノアたちに言及し、それがバプテスマをあらかじめ示した型であると述べられています。ノアたちが水を通して救われたことと、私たちが救うバプテスマとの共通点はなんなのでしょうか?(参照;コロサイ2章12節)
*当時のユダヤ人にとって、ノアの洪水物語(創世記6章5節~9章17節)は罪に対する神の裁きと救いを思い起こさせるものでした。
4. バプテスマは、正しい良心の神への誓いである(21節)、とはどういう意味でしょうか?また、なぜイエス・キリストの復活によるのでしょうか?

まとめ:あなたにとって「救われている」とは、どういうことですか?



I ペテロ聖書研究<6> 4:1-11 主に従う歩み -神があがめられるため-

第5回の聖書研究（3章13節から22節）を通して、苦しみの中にあってもキリスト者は希望があること学び、そして、バプテスマ（洗礼）について考えてみました。続いてペテロはキリスト者たちに何を勧め、教えているのでしょうか？ 今日の箇所から考えてみましょう！！

1. 1節で「あなたがたも同じ心構えで」とありますが、それはこれまで学んできたキリストの姿の何を表しています。これはどのような「心構え」でしょうか？また、「同じ心構えで自分自身を武装する」とはどういうことでしょうか？
2. 3節で「過ぎ去った時」とありますが、過ぎ去る前と過ぎ去った後では、どのような違いがあるでしょうか？
3. 5節で「生きている人々をも死んだ人々をも」とありますが、これは生きているか死んでいるかにかかわらず、すべての人を指しています。5節から神様はどのようなお方であるとわかりますか？
4. 6節に注目してみましょう。「肉体においては人間としてさばきを受ける」とことと、「霊においては神によって生きる」とことは、具体的にはどのようなことを指しているのでしょうか？
5. 7節から11節では、どのようなことが勧められていますか？また、それは何のためですか？

まとめ：私たちはキリスト者として、何のために生きているのでしょうか？今日の聖書研究をふまえて、分かち合ってみましょう。



I ペテロ聖書研究<7> 4:12-19 後の栄光とさばき



第6回の聖書研究（4章1節から11節）を通して、神の主権について確認し、神があがめられるために神に従って生きることを学びました。続いてペテロはキリスト者たちに何を勧め、教えているでしょうか？ 今日の箇所から考えてみましょう！！

1. 13節で言われている「キリストの苦しみ」とは、どのようなものでしょうか？考えてみましょう。
2. 「燃えさかる火の試練」（12節）、「キリストの名のために非難を受ける」（14節）とのことばかり、当時のキリスト者はどのような状況にあって、どのような苦しみにあっていたと想像できますか？また、当時の人と今を生きる私たちと共通することはあるでしょうか？
3. 「キリストの栄光が現れるときにも、喜びおどる者となる」（13節）とは、どのようなときに何を喜ぶのでしょうか？また、「栄光の御霊、すなわち神の御霊が、あなたがたの上にとどまってくださる」（14節）とはどのような状態でしょうか？
4. 19節のように「真実であられる創造者に自分のたましいをお任せする」とはどういうことを指しますか？17節で言及してある「さばき」との関連を考慮しつつ考えてみましょう。また、ペテロはなぜこのことを勧めたのでしょうか？

まとめ：キリスト者として生きるとき、私たちが直面する苦難にはどのような意味があるでしょうか？
分かち合ってみましょう。

I ペテロ聖書研究<8> 5:1-11 神の群れの今、そして将来

第7回の聖書研究（4章12節から19節）を通して、終わりの時のさばきの時とそのときの喜びについて学び、キリスト者が直面する苦難の意味について考えました。続いてペテロはキリスト者たちに何を勧め、教えているのでしょうか？ 今日の箇所から考えてみましょう！！

1. 1節から4節では、長老たちに勧めがなされ、いくつかの具体的な態度が示されています。なぜこのような態度を牧する者に勧めているのでしょうか？また、群れの模範になるとはどのようなことでしょうか？
2. 5節で若い人たちに勧めています。へりくだる者とはどのような人でしょうか？また、なぜへりくだることが求められているのでしょうか？
3. 8節から9節に注目すると、堅く信仰に立つことと、悪魔に立ち向かうこととはどのような関係があるとわかりますか？
4. 6、7、10節から神がどのようなお方であるとわかりますか？

まとめ：神はあなたに、どのように関わってくださる方ですか？分かち合ってみましょう。



—終わりに—

「卒業生のための聖書研究テキストを作りたい！」

全国卒業生会担当主事の間でアイデアを温めつつも、取り組むことが難しかったのですが、共に労して下さる卒業生達が与えられ、協力を得て、このようにしてIペテロ聖書研究テキストが完成したことを心から感謝します。

緒論からテキスト作成担当の野口彩夏さん（九州地区卒業生）、イラスト担当の山口新さん（北陸地区卒業生）とレイアウト担当の山口純音さん（東北地区卒業生）夫妻に心から感謝します。全国からの卒業生が共に労することができたことも、全国的な交わりの積み重ねと広がりの実として、嬉しく思います。

卒業生ならではの葛藤や悩み、忍耐を要する日々を信仰に立って歩むこと・・・この聖研テキストを使って、全国各地区の様々な卒業生の交わりの場でみことばを深く味わい、みことばに心探られ、主イエス・キリストに目を向け、静かに確かな励ましを受け、共に祈り合う。そのような「交わり・みことば・いのり」が広がり続けられていくことを心から願っています。

2016年1月
全国卒業生会担当主事 田中牧子



この世の寄留者として～遣わされた地で福音に生きる～
ペテロの手紙第一 聖書研究

2016年4月26日 初版発行
著者 野口 彩夏 (九州地区 KGK 卒業生)
イラスト・レイアウト 山口 新 (北陸地区 KGK 卒業生)
山口 純音 (東北地区 KGK 卒業生)
発行者 キリスト者学生会 卒業生会
発行所 〒101-0062
東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCC ビル 3 階
Tel&Fax: 03-3294-6916
Email: office@kgkjapan.net

